

こだま

福岡小児歯科集談会会報

第 37 号
発行 平成31年3月30日
発行者 会長 二木 昌人
福岡市中央区薬院4-1-26-2F
ふたつき子ども歯科
TEL:092-523-7560
E-mail:fc-dental@san.bbiq.jp

巻 頭 言

『娘の留学がもたらしてくれた幸せ』

かつまた歯科小児歯科医院 勝俣 真里

娘が、2015年の11月から1年間デンマークのオーフス大学に留学しました。オーフス大学の研究室の教授は女性で、優しく温かい方でした。研究室のスタッフの皆さんもフレンドリーに、そして丁寧に指導して頂き、楽しい一年間を過ごす事ができたようです。

娘がどういう国で暮らしているのかも気になりましたし、娘が送って来てくれる、建物や街並の写真が素敵なので、絶対年末には行きたいと計画を立て、8泊10日の旅程で、デンマークに行きました。

私たち夫婦は元々海外旅行が趣味でしたが、いつも近場ですませていました。ところが、コペンハーゲンまでは11時間。大変そうでしたが、いざ乗ってみると割と楽で、楽しくフライトでき、又ヨーロッパの街並み、教会、お城に感激し、それからすっかりヨーロッパ好きになりました。

娘が留学しているうちに、翌年の夏はミラノへ。娘が帰国した翌年のゴールデンウィークはロンドンへ。昨年末から年始にかけてはローマに行ってきました。

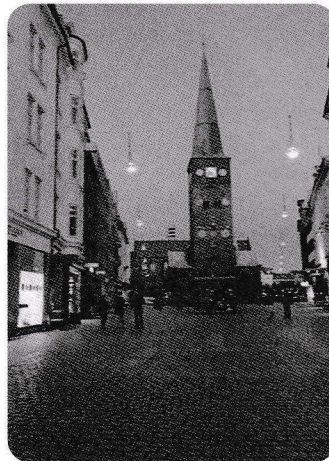
私達の旅行は基本、ネットの旅行サイトを利用します。航空券、ホテルパックというもので、行き先の、好きなホテルを先ず選び、そこから次に航空機を選択し料金が決まります。旅行自体もちろん楽しいのですが、このホテルと航空機をいかに安く、素敵なホテルを選ぶかが重要で、ゲーム感覚でわくわくします。

観光地だけでなく、地元の人が行くデパートやスーパーマーケット、商店街等を見て回るのも好きで、食事もお店の人を利用するお店を選びます。旅先でのスケジュールやコーディネート、予約すべては娘にまかせています。家族4人で、現地味わう美味しいお料理と、美味しいお酒、楽しい会話はなんにもにも代え難い至福の時間です。今では、この旅行のために働いている様な気もします。しばし現実を離れて羽を伸ばす事で、明日への活力になっています。

今まで考えた事も無かった、遠い国への旅行が現実となり、私の視野も広がりました。これは、娘の留学が引き金になった事は間違いありません。

楽しみを持ち、生き甲斐を持ち、生き生きと仕事を続けるためにも、体が動く限り海外旅行を続けたいです。

(写真 右上は、オーフス市街地)



● 会長挨拶 ●

福岡小児歯科集談会 会長 二木 昌人

会員の皆様、お元気で臨床に励んでいらっしゃると思います。

昨年春の社会保険診療報酬の改定で、小児歯科分野では小児口腔機能発達不全症と言う診断名、および診断基準が提示されました。近年口呼吸や咬合、咀嚼、構音の問題が歯科分野のみにかかわらずクローズアップされています。小児歯科医としても歯列咬合や舌小帯などの器質的問題のみでなく、機能的問題にもアプローチすることが必要になってきていると感じます。学校でも「あいうべ体操」を実践しているところも珍しくありません。学校歯科医会でも口腔機能に関しては委員会で冊子の発行も行い、今後、学校健診で診査項目に入ってくる可能性もあります。MFTも再評価されるべき時期になってきていると思いますし、小児科医や言語聴覚士との連携も必要ではないでしょうか。



小児歯科医が、トータルケアの中で小児の口腔機能の全体像を把握するセンターに位置し、他業種の方々とコラボレーションができるようなシステムを構築していければ理想と考えます。

う蝕や歯周疾患の治療や予防は、もちろん口腔健康のベースとなりますが、これらに始まり終わるというものではありません。歯科医は器質的リハビリテーションから、機能的リハビリテーションさらにはハビリテーションに目を向け、アプローチする時代がやってきました。時代が要求しているとも感じますので、私たちも進化が求められます。

平成30年度 福岡小児歯科集談会総会の報告

日時：平成30年4月25日(水) 19時30分～

場所：福岡県歯科医師会館 5階中ホール

会長挨拶の後、議長選出が行われ、以下の議事について報告および説明がされた

***平成29年度事業報告** (平成29年4月～平成30年3月) (二木会長)

- 平成29年 4月 総会、講演会 (吉田 茂先生)
- 7月 スタッフ対象セミナー (野村 ひとみ先生)
- 9月 講演会 (柳田 憲一先生)
- 11月 講演会 (増田 純一先生)
- 平成30年 3月 歯科医師対象セミナー (安永 敦先生)
- 3月 会報誌「こだま」発行

***平成29年度会計報告** (安藤先生) および**会計監査報告** (勝俣先生)

***平成30年度事業計画** (二木会長)

- 平成30年 4月 総会 講演会 (太田 由美さん、友重 文子さん)
- 7月 スタッフ対象セミナー (講師：未定)
- 9～10月 講演会 (講師：未定)
- 平成31年 2月 歯科医師対象セミナー (講師：未定)
- 3月 会報誌「こだま」発行

***平成30年度予算案** (安藤先生)

以上の議案は、すべて出席者の承認を得られ、議決された。

総会后講演会

日時：平成30年4月25日（水）

演題

場所：福岡県歯科医師会館

日本小児歯科学会認定歯科衛生士

5階 中ホール

リレー講演 輝く歯科衛生士

参加者：45名

～今の私が伝えたいこと～

講師：太田 由美さん 友重 文子さん

講演Ⅰ 共に育つ ～地域・家族、そしてスタッフと～

たかかぜ歯科 日本小児歯科学会認定衛生士 太田 由美さん

たかかぜ歯科では、医院全体のスキルアップを目的とした、様々な取り組みがなされています。院内で開かれるミーティングや研修会での活発な意見交換。全国各地で開催される研修会への積極的な参加。そこで得た知識の共有を図るための更なる勉強会。細やかな地域保健活動。そして、それらを生かすためには、チームプレイが大切であることを実感されていると述べられていました。そんな中で子育てをしながら、スタッフと協力しあい、小児歯科認定衛生士の取得をなし遂げたことには、大変感銘を受けました。今日まで、たくさんの方々を支えられ、たくさんの事にチャレンジし、共に育ってこれたのは、家族、職場のスタッフ、地域の方々のおかげであり、たいへん感謝していると結んでいらっしゃいました。



《参加者アンケートより》

- ・ 医院全体で勉強会をすることによるレベルアップはすごいと思った。子どものメンテナンスをするだけじゃなく、その重要性を知ってもらう工夫をしている。
- ・ 日々の中でいつも感謝を忘れず頑張っている方だと感じました。そんな心がきくと、仕事に生かされているんだなと感じました。

講演Ⅱ 楽しむ ～私として歯科衛生士として大切にしたいこと～

ありた小児矯正歯科 日本小児歯科学会認定衛生士 友重 文子さん



歯科治療を嫌がって泣き叫ぶ子供は、どうして泣くのか？痛み、不安で怖い、武器として泣いてるのか、パニックなのか？客観的に分析し、その保護者を観察し、友重さん自身の子育てや、DHとしての30年間の豊かな経験をもとに、安心して歯科治療を迎えられるよう誘導していくテクニックを紹介してくださいました。また、健全な口腔機能を育ていくための指導法についても、本人にも保護者にも、ストレスにならないよう配慮していく独自の手法もたいへん興味深いものでした。特に、時には診療の妨げとなるかもしれない、子供の自然な自己主張の姿を、保護者の気持ちに寄り添いポジティブにとらえることで、治療に関わっていき周りを明るくしていく過程に、大変感動致しました。

《参加者アンケートより》

- ・ 楽しい気持ちは全てに伝染する！お母さんが肩をの力を抜いて、楽しめるように支援すること、「楽しい」と思う気持ちはどの状況でも前向きに生きられる秘訣ですね！
- ・ おりこうさんほど、関心を持つことが大切だと改めて分かりました。

あんどう歯科・小児歯科 安藤 匡子

講演会

日時：平成30年7月11日（水） 午後7時30分～9時
場所：福岡県歯科医師会館 5階 中ホール
参加者：17名

演題1
ミャンマーの医療に恵まれない人々への口からの健康作り
演題2
Think Globally, Act Locally.
海外の歯科保健活動経験を国内で活かす時代が到来！
講師 松本 敏秀 先生 藤瀬 多佳子 先生

講演Ⅰ ミャンマーの医療に恵まれない人々への口からの健康作り

アジアのこどものデンタルケア 松本 敏秀 先生

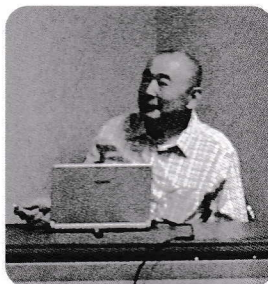
松本先生は2011年5月より、ミャンマーをベースに歯科保健活動に携わっていらっしゃいます。国情として、ミャンマーは多民族国家でかつ文化的にも異なりますが、経済的にも恵まれない中で、歯科医学分野では、歯科医師不足はもちろん、問題が山積しているようです。

その中で、公衆衛生の分野に目を向け、小児や児童を中心に、孤児、障がい児（者）、有病者や少数民族など、医療に恵まれない人々への歯科治療や口腔からの疾病予防に取り組み続けていらっしゃるとのこと。

さらに、いくつかの拠点を繰り返し訪問し、ミャンマーの歯科医師、予防に関しては医療関係者にとどまらず教師、施設や地域のリーダー、国際NGO現地スタッフなどに引き継いでいるとのこと。そしてミャンマー人の手でこの活動が持続し、発展していくことを目標にされています。

集談会会員である私たちも、同じ小児歯科医として、活動を何らかの形でサポートできれば、と感じました。

公益財団法人 西日本国際財団は、アジアとの国際交流に貢献している九州・沖縄・山口地域の団体・個人等を表彰しています。松本先生が、2018年『第20回 西日本国際財団アジア貢献賞』に選ばれました。



講演Ⅱ Think Globally, Act Locally. 海外の歯科保健活動経験を国内で活かす時代が到来！

きし哲也歯科医院 藤瀬 多佳子 先生

藤瀬先生はかつて、JICA海外ボランティアとして南太平洋トンガ王国で2年間、パシフィックパートナーシップおよびNGOの一員としてベトナム、カンボジア、スーダンで医療支援活動をされたキャリアがあります。

現勤務先の立地が、留学生とその家族を中心とした外国人患者が多く、歯科治療を行う上で、各国の歯科レベルのバックグラウンドはもとより、宗教、

文化、将来的なフォロー等を考慮する必要があると実感されているそうです。

海外での医療支援活動に参加することで視野が広がり、いろいろな角度から物事を考える機会を与えられたとのこと。

講演では各国での経験と、その経験が日本の歯科医院を受診する外国人患者に柔軟に対応し、適切な処置に有効であることを、具体例を示し説明いただきました。

ふたつき子ども歯科 二木 昌人



歯科医師対象セミナー

日時：平成30年9月2日（日）

演 題1

「平成30年、それは“口腔機能”元年」

場 所：福岡ガーデンパレス

演 題2

「過不足ない保険請求のために～小児歯科編～」

参加者：30名

講 師 九州大学名誉教授 中田 稔 先生
おがた小児歯科 石倉 行男 先生



中田 稔 先生

平成30年4月の保険点数改定で、小児歯科医療に携わる私たちにとって大きな変化となる「小児口腔機能発達不全症」という病名とその対応が盛り込まれました。当日はRKB毎日放送のテレビ取材が入る中、まず九大名誉教授の中田先生から今回の制度が導入されるに至った歴史的背景とその意義を、次いで福岡市の医療保険委員を長年務めておられるおがた小児歯科の石倉先生から保険請求に関する注意点を詳しく説明していただきました。

30数年前私が歯学部学生だった頃、中田教授の講義で小児歯科の目的は「成長発育期を通して健全な口腔機能を営みうる総合的咀嚼器官をつくること」と教わったように記憶しています。従来の狭義の口腔機能回復（歯冠修復）から、今回の改定で広義の口腔機能の概念が保険制度の中で初めて明文化された、その期待感を込めて中田先生は今回のタイトルを「口腔機能元年」と表現されたのだと思います。

私の診療室でも「口腔機能発達不全症」に該当する子どもたちは年々増加しているように感じていただけに、今回の保険導入はたいへんうれしく思いました。石倉先生にはこの制度を詳細かつ丁寧に解説していただいたのでとても参考になりました。



石倉 行男 先生

中田先生はこの制度をより良いものとするべく「口腔機能発達不全症研究会」の立ち上げを提唱されておられます。私たちは小児歯科医療がめざす本来の目的を保険制度の中で実践できるように、ひいては多くの子どもたちの健康と幸せのために、今後積極的な取り組みが要求されているのだと思います。

古澤こども歯科クリニック 古澤 潤一

講演会

日時：平成30年11月14日（水）

演題

場所：福岡県歯科医師会館

神経発達症（旧：発達障害）と
子どもの虐待について

4階 第4会議室

講師：福岡大学筑紫病院 小児科診療部長・教授

参加者：33名

小川 厚 先生

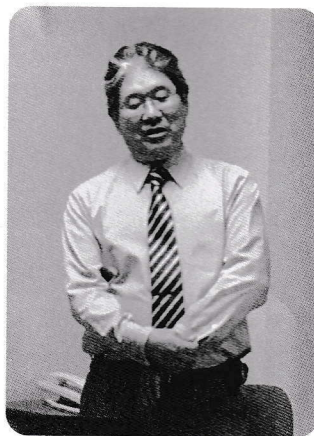
小児科関連学会の複数の指導医の資格をお持ちになり、地域の様々の施設での指導医や相談医を兼任されご活躍なさっていらっしゃる、小川教授にお話して頂きました。

2013年の米国精神医学会の疾患概念・診断基準の改定（DSM-5）の中で、発達障害は、神経発達症という分類名が採用されるようになり、その主な変更点としては、知的障害は、知的発達症への名称変更と診断基準からの指数の削除となったこと。広汎性発達障害は、自閉スペクトラム症/障害（ASD）への名称変更と診断基準変更となったこと等を、詳しくご説明して頂きました。

また、ASD/ADHDの臨床像と、虐待による反応性愛着障害の多動、衝動性などは、臨床的に鑑別困難であることを解説して頂きました。小児歯科医は、ASD/ADHDと思われる患児に、著しい齲歯や口腔外傷が見られた場合、虐待を疑い通告を検討して欲しいということと、子ども虐待の見張り番としての小児歯科医の働きは重要であることを強調されていました。

臨床の場での様々な子供たちや保護者とのエピソードを交えながらのお話でしたので、とても分かりやすく、改めて、こういう環境下の子どもたちへの社会的なサポートの重要性を痛感いたしました。

あんどう歯科・小児歯科 安藤 匡子



講演会

日時：平成31年2月17日（日）

午後2時～5時

場所：福岡県歯科医師会館

4階 第4会議室

参加者：26名

演題

小児の言語療法について
—構音障害を中心に—

講師：倉重こどもクリニック 言語聴覚士

緒方 祐子 先生

ことば（構音操作）は、子供が生来的に持っている能力ではなく、生後の中枢神経の成熟や学習によって獲得されるものであり、0歳～6歳頃に完成することを、最初に説明されました。規則正しい生活や体の発達にそった十分な運動などが基盤となった『ことばのビル』の説明で、「手先が不器用・よく転ぶなど運動面の不器用さがある子供は、発音にがて」というお話も、納得いくものでした。

次に、発音がはっきりしない構音障害について説明されました。構音障害には3つあり、そのうち、子供のことばの発達の途中で音を作る操作を間違っしてしまい、それが習慣化した機能性構音障害と、口蓋裂・発音器官の形態異常から機能障害を起こす器質的構音障害について、詳しく解説して頂きました。舌と硬口蓋の接触を評価するEPG（electro palatogram）と音声で、治療前後の変化を示していただき、治療の成果を客観的に判断することができました。

最後に、言語障害のある子供さんの治療には、多職種連携が必要なことも強調されていて、今後小児歯科との連携もますます増えると思われました。

講演会后、緒方先生との懇親会時、参考になるような書籍等をお尋ねしておりましたら、以下の書籍、DVD等をご紹介いただきました。

1. 口腔の生育をはかる〈第1巻～第3巻〉

佐々木 洋先生 監修 医歯薬出版

2. 器質性構音障害 —言語聴覚療法シリーズ

機能性構音障害 —言語聴覚療法シリーズ

齊藤 裕恵 （著） 建帛社

3. 吃音 子供の吃音 ママ応援ブック

菊池 良和 （著） 学苑社

4. EPG 関連DVD・動画

① 目で見る日本語音の産生 エレクトロパラグラフィ（EPG）を用いて

山本 一郎 監修 EPG研究会

② 目で見る構音障害

藤原 百合・山本 一郎 監修 EPG研究会

③ 国立国語研究所 日本語の発音



廣田歯科医院 廣田 和子

訃報のお知らせ

当会会員で福岡市東区開業の山口昭一先生が、平成30年12月29日に58歳で逝去されました。山口先生には、当会の会誌「こだま」の巻頭言をお願いしたことがありました。

また、医療保険関係もお詳しく、歯科医師対象セミナーで小児歯科関連の医療保険について講演頂いたこともありました。告別式は、実家のある鹿児島にて執り行われたそうです。

個人的には、同郷で、九州大学歯学部卒、九州大学小児歯科の同門の後輩としての存在でした。

ここに謹んでお悔やみ申し上げます。



福岡小児歯科集談会会長 二木 昌人

編集後記

子供の虐待や、子供の貧困に関連して、『こども食堂』が話題になっています。私の地域でも、近々始まると聞いています。貧困の有無に関わらず、おかあさん方は、毎日どのような食事を子供たちに提供しているのでしょうか？

休日、『耳納の里』という地元の農産物を販売している所（道の駅のような所）に行きます。それも生産者が出品するような早い時間で、まだ買い物客も少なく、ゆっくり品定めもでき、時には生産者においしい食べ方まで教えてもらえます。道の駅ブームでしょうか、時間が遅くなるとレジに長蛇の列ができ、長時間並ばなければなりません。客層をみると、どちらかというとな配の方が多く、若い子供連れの方には、出来合いが多く並ぶスーパーマーケットのほうが人気のように思えます。



新鮮な地元の農産物を使って、手っ取り早く作れる料理を、おかあさん方に教えてくれないかなと、ここに来るたび思っています。

廣田歯科医院 廣田 和子